

関連資料

第1節 マイスター・ハイスクール運営委員会議事録

I-1 第1回運営委員会議事録(抄)

1 日 時 令和5年6月2日(金) 13:30~15:35 (参集およびオンライン)

2 場 所 北海道静内農業高等学校 体育館

3 出席者

(1) 運営委員

大野 克之 委員, 倉本 博史 委員, 生田 泰 委員,
水野 治 委員(オンライン参加), 河原 秀幸 委員, 松井 克行 委員
遊佐 繁基 委員, 諏訪 勝巳 委員(萩庭 寿人 氏代理出席),
鈴木 一由 委員(オンライン参加), 森 順子 委員(オンライン参加)
赤穂 悦生 委員, 遠藤 博文 委員

※ 西村 和夫 委員, 河原 秀幸 委員は所用により欠席

(2) マイスター・ハイスクールCEO(副校長) 桑名 真人 氏

(3) 産業実務家教員 中西 信吾 氏

(4) 北海道教育長日高教育局

行徳 義朗 局長

(5) 北海道教育庁学校教育局高校教育課

今中 勇希 課長補佐, 藤井 隆史 指導主事

(6) 株式会社あしたの寺子屋 嶋本 勇介 氏(伴走支援者)

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 説明(伴走支援者からの情報提供)
- (3) 協議
- (4) 農場視察
- (5) 閉会

5 指導・助言の内容(意見抜粋)

- この成果を道内の他の専門高校, 農業や水産, 商業などにおいても, それぞれが持続可能な形で実施していくようなモデルを作っていきたい。
- それぞれの取組がそれぞれ単発ではなくて, 互いがいろいろ関係しながら循環的に進めるような仕組みになっていくことが必要だと思います。
- 生徒の学びの成果を外部に発信しながら, その評価をフィードバックする, そういった場づくりも大変重要であると思います。
- 「探究チャレンジ」では, 静内農業高校が発表したホースセラピーの取組が, 最も評価の高い「知事賞」を受賞しております。今後の取組の中にこのような事業の活用も検討いただきながら, 生徒にとっての成果や意欲の拡大につなげていきたい。
- 自走に向けて, 事業終了後にどのような対応が必要かということについて様々な課題があることを認識した。
- この事業が終了しても, 普及センターの一般の業務の一環の中で, 継続して進めていけるのではないかと考えている。
- 普及センターとしても大変勉強になったとの声を聞いており, このような連携は続けていかなければならないと改めて強く感じている。
- さらに事業の認知度を上げて, 最終的には地元支援・協力いただく必要があると思う。
- 3年でどういう成果が出るのかなと, 非常に半信半疑だったところがあったが, 実際, 入学者数が増えたということが大きな成果だった。
- 前はなんとなく来ていた気がしたのですが, 今はとても熱心で, 世話も一生懸命しますし, その辺がとても変わった。
- 将来的には, 海外で働きたいという自分の夢をしっかりと持っている生徒で, 農業高校にもこういう生徒がいるのかと, 非常に感心した。

- 軽種馬生産振興事業を利用して、高度化技能研修事業の中から、いろいろな予算を出してきました。軽種馬振興事業は5年時限の事業だったが、昨年の競馬法の改正で、恒久的な事業になり、今後も継続的に予算が付くようになった。
- 高校で行っている内容なども情報共有しまして、実際に生徒の数も増えていることや、予算的なことも増えていることを話している。J B B A、あるいはJ R Aにもその辺は要請して、今後とも引き続き協力していきたい。
- J B B Aだけでは、どうしても対応しきれないところもあるので、これは地域全体で何とか協力していただきたい。
- 若い人材は、この軽種馬産業にとっては、非常に大切な仲間であり、皆で育てていきたい。
- 本事業の取組や実習は、学校の先生ではなく、様々な外部講師に教わるというところに、生徒たちは新鮮さを感じているようである。
- このような体験は、生徒たちの進路選択に大きな影響があると思うので、予算の関係上難しい面も多々あるのかと思いますが、同規模で継続できなくても、何らかの形で残していただきたい。
- 民間企業にとって産学連携はマストであるので、来年以降も協力させていただきたい。
- 弊社の社員の成長とモチベーションの向上にもつながっており、続けてやりたいと考えている。
- 高校生にとって実際に商談の場に入ってもらって、いわゆるフロントサイド、小売りのバイヤーさんと触れ合ってもらっていただくことになる。また、他のメーカーさんとの対応もできるので、いろいろな触れ合いを感じてもらいたい。こういった継続的な取組を、民間としてはやらせていただきたいと思いますので、ここに課題として出ているバックアップの部分がついてくれば、活動もしやすいのではないかと考えている。
- 我々も高校生との取組を見てください、という意味でこちらにもメリットがあるので、ボランティアではないという認識である。
- 日高振興局としても、協力できることは連携して取り組んでいきたい。
- 管内の産業振興や地域振興で、通常業務としてやっている仕事とうまく連携を図りながら、お互いに取り組んでいけるような形にできればと思っている。
- プロジェクト学習のチーズ製造実習では、昨年度までは生徒さんが試行錯誤しながら成長していったものが、今年は上級生が下級生に製造指導ができるような、そこまで成長して楽しんでいらっしやると、そういう製造実習をするようになったと伺っている。非常に大きな進展、成果であると、非常に嬉しく考えている。
- また、今年度の日本食品安全マネジメント協会の授業では、食の品質管理を実習現場で課題発掘するという授業になっていますが、昨年に続きましてWHOのインターネットサイトにも、日本の食品安全教育の取組記事として取り上げられた。このように地域から情報発信ができていくということが、生徒の皆さんの地域への愛着とか、帰属意識の高まりにつながっていくものと期待している。
- バイオ炭につきましても、今年度から新ひだか町、静内農業高校、農協、普及センターによる土地改良にバイオ炭を活用する事業なども、広がりを見せてきている。環境問題へのこうした取組が、マイスター・ハイスクール事業終了後の自走にもつながるいい取組になっていければと考えている。
- 育成すべき人物像を共有するという、これは一生懸命の先生が自分がこうしたいというのがあっても、バラバラだと学生が混乱するが、人物像を共有するというのは意外と難しかったりする。我々も、そこから連携を進めていきたい。
- 実務家教員の人材確保がとても難しく、静内農業高校さんも苦勞されているということは前回参加させていただいた時に、お話をさせていただいた。人材を取り合うのではなく、もし可能であるなら、うちの実務家教員の先生を、高校の教育もさせていただきながら、教育も学ばせていただくこともできるのではないかと。教育に関しては、受け入れることはコラボレーションさせていきたいし、また、我々の学類の中には、食と健康学類というものもあるので、馬だけではなく、そちらの方でもやれることは積極的に協力させていただければと考えている。
- 桑名CEOのプレゼンを伺って、本当に生徒さんの結果が出ているということ、とても嬉しく伺った。それを一番表していたのが、娘さんの声だったと思う。目標が違う気がするという、進学ではなく就職かもというところ。そういうふうには、これからということに気づくというのは、とても大事なことだと思う。
- ふるさと納税を活用して、今は町と連携して商品をたくさん作っているの、そういったところから、資金を捻出するのもありなのかなと思う。
- 静内農業も馬や食品など突出したものがあるので、そういう町を含めた留学的なものがあったら、いろいろな方が全国から注目してくれるのかなと思う。

- 静内農業高校のゴールがどこか。どこまでをゴールとして、そこまで何ができるかということを見ると、資金調達だったり、プロジェクトだったりすると思うので、こちらもアイデアを出しながら、最後まで御一緒にしたい。
- ここまで作り上げてきたものをうまく利用して、CEO、産業実務家教員の機能を校内にうまく移管して、静農版マイスターという形で、コンパクトに展開していければと思っている。
- このマイスターで、生徒たちは、立場も世代も異なる人たちと関わった中で、その人たちの想いとか、社会に出ることの魅力だとか、課題に気付いて、自分にできること、やれることを発見して、夢、志を抱きながら、新しいものを作り出すという、そういう生かし方、この大きな自信を付けたというのは、もう何でもできるというか、いわゆる魔法の杖を手に入れたと思っている。
- この自信によって、子どもたちは最後まで乗り越えてやってくれると思う。先生方にもこの間、自信がついている。
- この3年、今3年目であるが、やってきたこと自体は、誰も否定する方はいない。むしろ、その取組が、学校にとって子どもたちを成長させる上でも大変重要なことだという認識を皆さんおもちだと思う。
- 自走するに当たって、どういう推進体制と役割分担をするのかというのを考える必要がある。それを考えた上で、子どもたちに何をやっていくんだ、そのためにはどういう形で、どのくらいの予算が必要なんだ、ということを早急に組み立てる必要がある。
- 皆さんの気持ちは一緒だと思うので、それに向けて、何とか私も努力したいと思うので、委員の皆さんの御協力を賜れればと思う。何かいい知恵がありましたら、次回の委員会の時に、あるいは桑名CEOの方に連絡していただければと思う。

I-2 第2回運営委員会議事録(抄)

1 日 時 令和5年10月18日(水)13:30~14:50

2 場 所 北農健保会館 特別会議室(Zoomによるオンライン開催)

3 出席者

(1) 運営委員 12名

西村 和夫 委員, 倉本 博史 委員, 生田 泰 委員

水野 治 委員(藤井 茂則 氏, 松塚 尚人 氏代理出席), 松井 克行 委員

遊佐 繁基 委員, 諏訪 勝巳 委員(萩庭 寿人 氏代理出席)

森 順子 委員, 赤穂 悦生 委員, 遠藤 博文 委員

※ 大野 克之 委員, 河原 秀幸 委員, 鈴木 一由 委員は、所用により欠席

(2) マイスター・ハイスクールCEO(副校長) 桑名 真人 氏

(3) 産業実務家教員 中西 信吾 氏

(4) 北海道教育長日高教育局

伊藤 博貴 次長

(5) 北海道教育庁学校教育局高校教育課

今中 優希 課長補佐, 川窪 誠 主査, 藤井 隆史 指導主事

(6) 株式会社あしたの寺子屋 嶋本 勇介 氏(伴走支援者)は所用により欠席

4 会議次第

(1) 開会

(2) 説明

ア 3年目の事業経過

イ 事業の継承について

(3) 協議

ア 質疑応答, 指導・助言

(4) 連絡

ア 成果発表会について(令和5年12月19日(火)予定)

(5) 閉会

5 指導・助言の内容(意見抜粋)

- 今回の取組を通じて、ほぼすべての生徒が幅広く、また非常に深い学習活動ができてきたということを報告いただきまして、大変よかったと思っている。

- これまでの成果を維持しつつ、さらに発展していけるように、また、他の専門高校にも横展開をしていくことは、我々のねらいの一つでもある。
- 今後に向けて、人員の配置や予算面など、学校からの御意見、要望を踏まえ、引き続き、今回の取組の成果を生かし、さらに発展していけるように対応していきたい。
- 今回の取組を通じて、静内農業高校で構築してきた職業人材育成システムを、他の専門高校にも横展開していけるように取り組んでいきたい。
- 生徒さんが結構生き生きして授業を受けられていることに非常に感銘を受けた。経済界として、道経連が全部できるわけではないが、できる限り協力はしていきたい。
- 普及センターの支援、協力については、これまで同様、普段の普及活動の一般の業務という位置付けの中で、御協力、御支援をすることは十分可能である。
- 道総研からもかなり協力、支援させていただいているが、学校が今後かなり高度な技術などについて求める場合は、農業改良普及センターを通じて要請していただければ、支援することはできる。
- 今回の事業によって先生方と普及センターのつながりが、かなり大きくなったという感じはしているので、それを継続した中で、今まで同様、情報交換や技術の共有化をしていければいい。
- 地域貢献であるとか、産学官連携は責務である。かつ、この企業価値向上を図る上においても、絶対必要不可欠な取組であるというところを、改めて痛感している。
- 企業にとっては、人材の確保は最重要なテーマであるし、持続可能なエコシステムの構築というのが、実際にはもうできていると、実現に至ったと感じている。
- 3年間で特に有効であった事業や取組を継続したいということ、展示会への出展、国分北海道と静内農業高校がタイアップした商品開発の実現、最後に3つ目として、会社訪問や採用活動の継続ということ希望したい。
- 支援というよりは、弊社としましてはパートナーシップとして取組をしていきたい。
- 普段からの学習活動で静内農業学校の生徒さんと接しておりまして、3年間を通して、年々、学びが深くなっているということを強く感じている。
- 今後の関わりとしては、これまで同様、地方競馬全国協会から支援を受けております軽種馬経営高度化研修事業の助成金を使って様々な対応をさせていただいているが、そちらを使って今後も様々な支援を行っていきたいと考えている。
- 馬事コースの中で、中西先生が産業実務家教員として、かなりのコマ数を担当していたようで驚いている。これを内製化するの、かなり大変だと思うので、御協力できるところは協力していきたい。
- 高校の先生の研修についても、うちの研修事業で予算枠がありますので、そちらを利用していただいて、ぜひ積極的に研修を行っていただきたい。
- 馬の教育には、専門的な知識が非常に大事になってくる。今、馬担当の先生が何名かいるが、今後の教員の配置、異動もあると思いますので、専門的な知識をもった先生が常駐した体制をとっていただきたい。せっかくここまで質を高めてきたので、この質を落とさず、充実した教育体制をとっていただきたい。
- 地元、3、4年前に農業高校を卒業して後継者として就農した子どもたちがいるが、その子どもたちも、「その頃からこういうマイスター・ハイスクールのようなことができればよかったのに」ということを言っている。
- 職業を熟知しないで職についている生徒が多かったが、今の農高生というのは、いろいろな経験の中から、体験して自分の選択肢をきちんと判断できるようになってきたのではないかと、僕らの面接をしていても、学校が変わった、次に生徒が変わったという捉え方をしている。
- インバウンドも大分戻ってきてるので、グローバルな視点というのが大事になってくる。
- 専門的な知識プラス、欧米の方や中国人などインバウンド、世界のことを一つの教養として知っておくことが必要になってくる。
- 日高製品の消費拡大を図るため、札幌のどさんこプラザで日高フェアを例年開催しているが、その日高フェアに今年静内農業高校さんの商品を出品していただいて、試験的に販売にも携わった。また、農務課、林務課、水産課という振興局の一次産業を担当してる部署の出前授業という部分については、次年度以降も、引き続き高校と連携して取り組んでいくことが可能なのではないか。また、その他にどのようなことで振興局と静内農業高校とが連携していけるかを、今後とも高校と検討していきたい。
- 第三者継承の話は、農協としては、今はその環境づくり、高校卒業して就農できるような環境づくりを営農部を中心に考えている。
- 心配するのは、マイスター・ハイスクール事業が終わった後の持続がどういう形になるかと

いうことを、もう少し組織だった形できちんとあらわさなくてはならないと思っている。これから入学してくる子どもたちにも次の2年生、3年生、1年生のPTAにも、この環境を持続するということを、外に向かってきちんと表すべきだ。

- 地域の産業者が、こういう地域のイノベーターづくりの教育に対して、地域ぐるみで関わっていくということを、今一度、いろいろな産業の方が考えていかななくてはならない。
- その際、外部と先生方がやるところをはっきりしたシステムを構築していただきたい。
- 地域にどれだけイノベーターの役割になるような人材が育っているのかなというのが、成果とイコールになってしまうかもしれませんが、そういう人が1人でもいいから事例が出たら、地域の考えもまた深まるのではないか。

I-3 第3回運営委員会議事録(抄)

1 日 時 令和6年2月2日(水) 15:00~16:30 (参集およびオンライン)

2 場 所 第二水産ビル8A会議室

3 出席者

(1) 運営委員

大野 克之 委員, 西村 和夫 委員, 倉本 博史 委員,
生田 泰 委員(オンラインによる参加), 水野 治 委員,
河原 秀幸 委員, 松井 克行 委員, 遊佐 繁基 委員(オンラインによる参加),
諏訪 勝巳 委員, 鈴木 一由 委員(都築 直 氏代理出席),
森 順子 委員(オンラインによる参加), 赤穂 悦生 委員, 遠藤 博文 委員

(2) マイスター・ハイスクールCEO(副校長) 桑名 真人 氏

(3) 産業実務家教員 中西 信吾 氏(オンラインによる参加)

(4) 北海道教育庁学校教育局高校教育課

相馬 利幸 高校教育課長, 今中 勇紀 課長補佐,
川窪 誠 主事, 藤井 隆史 指導主事

(5) 北海道教育庁日高教育局

佐藤 英明 高校班主任査

(6) 株式会社あしたの寺子屋 嶋本 勇介 氏(伴走支援者)

4 会議次第

(1) 開会

(2) 報告

ア 3年目の事業報告

イ 定量的評価, 定性的評価について

ウ 事業終了後の体制及び取組について

(3) 協議

ア 検証・評価

イ 学校長より

(4) 閉会

5 指導助言の内容(意見抜粋)

- 生徒と地域の大人が互いに意見を交流する活動は、生徒の思考力や創造力を高めるためには、大変有効であることを再確認した。地域の産業界の方が学校の中に入っていて、一緒に学ぶということが、進路選択に大変大きな影響があることを確信できた。
- 目標値には達成することはできなかったのですが、例えば「地域の課題の解決に向けて行動できた生徒の割合」や「地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合」、あるいは「様々な産業人との交流を通し、自分の進路について考えることができた生徒の割合」は、非常に伸び幅が大きく、改善してきており、様々な方との交流が生徒の変化に大きく結び付いている。
- まずは静内農業高校の取組を、日高で取り組んだこと、引き続き自走できるよう取り組んでいきたい。
- また、私たちがやらなければいけないことは、どの地域に住んでいても、その地域の産業を支える人材の育成ができるように、取組を進めていきたい。
- 波及していくということは難しいと思いますが、一つでも静内農業高校の取組が参考になって、他の農業高校の方に知れ渡ればよい。
- 講義をいただいた企業や団体の方々からも、生徒や先生たちとの交流を通じて、改めて、教

育に対して、北海道の食品関連企業が積極的に関わることの重要性を気付かせられたという声を多くいただいている。

- 昨年12月の成果発表会においても、生徒の皆さんの地元に関するしっかりとした意見と、将来を見据えた強いまなざしを、非常に頼もしく感じた。
- 食品科学科の進路について、農業や食品を選んだ生徒が全体の6割を超え、とても驚いているとともに、喜んでいいる。
- 係る企業との連携の自走化が求められてくるところになりますが、引き続き経済団体として、農業、食産業と専門高校をつなげて、北海道に貢献する人材の育成に関わっていきたい。
- この事業を通して、生徒たちの成長ぶりが、本当によく感じられ、運営委員会を開催する度に、本当に実感できた。
- 成果発表会での生徒のプレゼンテーションや成果発表が、とても具体的で分かりやすく、また、グループごとの討議では、生徒一人一人が積極的に発言しており、進行役の生徒が意見を集約するところなど、非常に頼もしく思った。
- 定量的目標の評価結果の「エ」のところですが、様々な産業人との交流を通して、自身の進路について考えることができた生徒の割合が非常に高く、本事業が、本当に生徒の進路に大きな影響を及ぼしていたのだと感じた。
- いろいろな人と出会って、自分のやりたいことや自分の進路が、今回の事業で、はっきりと分かり、子どもたちの将来にとっても貢献できたのではないかな。
- この事業を通して、忍耐力や社会性、創造性など、多くのものを学べたと思う。
- 今回、子どもたちが経験したスキルを企業に就職してから、企業人として発揮してくれることを大いに期待したい。
- こういった事業を通して、大いに学ぶことが非常に大切だと感じた。今後ともこういった事業をより多く取り入れて、授業を展開していただきたい。
- 定量的目標の評価でいうと、しっかりと地域の課題を発見できている。その伸びが大きいことと、発見した課題について、一人一人が課題に取り組んでいるということが、先ほどの発表で見られた。また、先ほどからありますように、地域の課題や進路について、しっかりと考えることができたということは、大きな成果だった。
- 1年次と3年次の評価を比較したグラフは、非常に伸びが分かりやすく示されており、よかった。
- 定性的な目標に対する評価については、意欲が特に高いポイントだと感じた。なかなか自分で意欲が伸びたというのは難しいと思うが、高いという結果が出てきたということは、生徒の頑張りもあったでしょうが、外部機関や先生方による指導もあったことが、こうした結果につながっている。
- 農業改良普及センターについては、3年間関わらせていただきましたが、普及センターの一般的な業務の一環として、今後も関わらせていただきたい。
- 先日普及センターに行く機会があり、職員の前でマイスター・ハイスクール事業は終わりを迎えるが、これからも学校を支援していくことや、これまで培ってきた関係性を維持し、気軽に情報交換できる関係性を継続させてほしいとのお話しをしてきた。
- 生徒が変わった、先生が変わったというのは、どちらが先に変わったのだろうと考えた時、私は、生徒が変わったので先生も変わらざるを得なかったのかと思う。
- 目標に到達したのは、3つ、4つということでしたが、私個人としては、左の3つの項目が改善されているのが非常によいことだと感じた。
- 2番目の地域の課題を発見し、行動できた生徒の割合が高くなっていることは非常に素晴らしいことだ。
- 一番左と、3番目の項目の地域のために貢献したいと考える生徒が増えているということですが、先日のニュースで、40道県で転出過剰となり、東京ばかりが人口が増えている状況の中で、地元に残って仕事がしたい、役に立ちたいという生徒が増えていることは、とても素晴らしいことだ。
- 他機関との調整や予算面などの課題はあるのですが、できる形で継続していただければと思う。
- 獣医については、やはり北海道は大動物である牛や馬などがいるので、獣医師の養成ということで、馬のスペシャリストを一人でも多く育てていただきたい。
- 形が変わっても、何とかこのまま続けていただければと思う。
- 民間企業として参加してよかったのかなと考えている。
- 教わっている生徒さんたちよりも、講師を引き受けた私たちが非常に勉強ができたという話を聞いている。
- 3年間取り組んだ結果として、今年、食品科学科から1名の就職が決まり、非常に素晴らしい成果があがったと考えている。

- 静内農業高校とは支援という形ではなく、パートナーシップといった形で、今後とも引き続き取り組んでいきたいと考えている。高校とつながることは、私にとっても大賛成である。
- 就職した生徒も、会社の中で、どんどん成長して、中核となるよう育ってくれたらと思う。
- 知識をもつことが、発想が生まれることにつながるので、その成果がこれから次々と出てくるし、その流れを、後輩たちも行っていくことが伝統になると思っており、継続することが大事だ。
- また、企業の皆さんや食品会社の皆さん、地域の生産者の皆さんの理解や協力がなく、この事業は続かない。
- 一番心配していることは、(中学生が)高校を選択する際のことで、高校の中身を見て高校を選んでほしいと言っても、なかなか今の中学校では、目先で高校を選んでしまう。しかし、社会人になるに当たっては、静内農業高校の価値というのは確実にある。
- いかに高校の先生方が専門的な知識をもって、指導に当たってもらえるかということを気にしている。
- 進学の中に就農を考えている生徒が3名いるということで、JAとしても卒業した生徒が就農、就労する道というのは、きちんと我々がつくって、農業高校での学びを継続した形で進めていきたい。
- 是非、農業高校にも高温障害の研究に取り組んでもらいたい。研究は、農家ではやりきれないので、土地をもっている農業高校で、研究の材料として取り組んでもらえれば、そうした取組を地域にフィードバックするなど、地域との関わりができてくる。
- 進路選択の際に、静内農業を選択する生徒を増やすのは、なかなか難しいところがあるのですが、我々、地元が支援、サポートをしながら、一つの成功事例をつくっていくことも必要ではないか。
- どさんこプラザで開催しました日高フェアに生徒が開発した商品を出品したことや、農業や林業、水産業といった一次産業の施設の見学など、出前授業という取組は、大変重要だ。振興局としても来年度以降も継続しながら、ほかにも、何か学校とできることがないか検討していきたい。
- J B B Aからは、産業実務家教員として中西先生を送り出したが、どうなるかと心配していた。とても充実した3年間でとても嬉しく思ってる。
- 馬に関しては、産業全体で人材の育成や確保が課題となっているので、今後も同様に協力する。また、生徒だけではなく、先生方への指導や研修についても、協力していく。
- いろいろなプログラムを通じて成長したということが、皆さんがおっしゃっていたように、グラフの伸びがとても大きいことにつながっている。
- また、意欲が伸びたということは、日本の高校生は、なかなか書きづらいと思うが、それでも伸びたと書きたいということは、本当に生徒さん自身がそれを把握して、成長を感じたのだと思う。
- コンセンサスといってもトップのレベルのコンセンサスが大事であること、それから、実務者レベルのスムーズな関係があることを話した。トップ同士の意識が大事なことで、スムーズに組織戦として捉えてやっていくことで、これからも継続していけるのではないかと考えている。
- これまで成長した2年生や3年生の姿を見ることも、新しく入る1年生には刺激になるので、是非これまでの経験を次につなげていただけたら、幸いである。
- 生徒自身がこの取組が、自分のためになったと感じていて、それが教員の方々にも伝わって、3年間の事業が終わった後も、違った形で継続していこうという話は、他の全ての地域で出ていたわけではないので、静内農業高校として素晴らしい成果ではないか。
- 単に学力をあげるということではなく、人が生きていくうえでもつべき力を、社会の順応性というのか、考える力といいますか、数学の勉強や英語の勉強がどうこうではなく、人として生きていくうえで基礎となる経験を生徒たちにさせてあげられた事業だった。
- 生徒が社会の変化を捉え、イノベーションを起こしていく力を身に付けるには、主体性を育むことが重要である。その主体性は、課題意識や当事者意識をもつことによって育まれる。しかし、課題意識や当事者意識を学校の教員だけが、教科書に載っている内容だけで、もたせるのは非常に難しいため、立場も世代も異なる多様な人と関わり、その人たちの想いに触れ、社会にある魅力や課題に気付く、自分にできること、やれることを発見していく必要がある。また、興味・関心や適性に応じた多様で体験的な学びも、学校だけで実現するのは難しく、地域のもつ多様性に頼るべき必要性がある。

第2節 令和6年度入学生教育課程表

Ⅱ-1 全日制課程食品科学科

教科	学年		1 年	2 年	3 年	計
	科目・標準単位数	類型				
語国	現 代 の 国 語	2	2			2
	言 語 文 化	2		2		2
	○ 国 語 教 養	2			2	2
歴地	地 理 総 合	2		2		2
	史 理 総 合	2			2	2
公 民	公 共	2	2			2
	政 治 ・ 経 済	2				
	○ 時 事 問 題 研 究	2			0～2	0～2
学 数	数 学 I	3	3			3
	数 学 II	4		0～2	0～2	0～4
	数 学 A	2		2		2
	数 学 B	2			0～2	0～2
科 理	科 学 と 人 間 生 活	2			2	2
	生 物 基 礎	2	2			2
	生 物	4		0～2	0～2	0～4
保 健 体 育	体 育	7～8	2	2	3	7
	保 健	2	1	1		2
	○レクリエーションスポーツ	2		0～2		0～2
	○ 生 涯 ス ポ ー ツ	2			0～2	0～2
外 国 語	書 道 I	2	2	選 択 A	選 択 D	2
	英 語 コミュニケーション I	3	3			3
	論 理 ・ 表 現 I	2		2		2
	○グローバルスタディーズ	2			0～2	0～2
	○アドバンストイングリッシュ	2			0～2	0～2
	家 庭 総 合	4	2	2		4
	○ フードデザイン	2		0～2		0～2
	○ライフマネジメント	2			0～2	0～2
	理 数 探 究	2～5			0～2	0～2
農 業	農 業 と 環 境	2～6	4			4
	課 題 研 究	2～6		3	3	6
	総 合 実 習	2～8	3	1	1	5
	農 業 と 情 報	2～6	2	0～2		2～4
	作 物	2～8		0～2		0～2
	果 樹	2～8		0～2		0～2
	畜 産	2～10		0～2		0～2
	栽 培 と 環 境	2～6			0～2	0～2
	飼 育 と 環 境	2～6			0～2	0～2
	食 品 製 造	2～8		2		4
	食 品 化 学	2～8		2		4
	食 品 微 生 物	2～6			0～2	0～2
	食 品 流 通	2～6		2		4
	○ 商 品 開 発 I	2		2		2
	○ 商 品 開 発 II	2			2	2
	○デュアル派遣実習	4			0～4	0～4
	○ スマート農業	2			0～2	0～2
○産業社会	○ 産 業 社 会 と 人 間	2～4	2	1	1	4
各学科に共通する各教科・科目の計			19	15	11～15	45～49
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			9	14	14～18	37～41
学校設定教科に関する科目の計			2	1	1	4
総 合 的 な 探 究 の 時 間 ()		3～6	0	0	0	0
合 計			30	30	30	90
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3

Ⅱ-2 全日制課程生産科学科

教科	学年		1 年	2 年		3 年		計	
	科目・標準単位数	類型		園芸コース	馬事コース	園芸コース	馬事コース	園芸コース	馬事コース
語国	現 代 の 国 語	2	2					2	2
	言 語 文 化	2		2	2			2	2
	○ 国 語 教 養	2				2	2	2	2
歴地	地 理 総 合	2		2	2			2	2
	史 史 総 合	2				2	2	2	2
民公	公 共	2	2					2	2
	○ 時 事 問 題 研 究	2				0～2	0～2	0～2	0～2
学数	数 学 I	3	3					3	3
	数 学 II	4		0～2	0～2	0～2	0～2	0～4	0～4
	数 学 A	2		2	2			2	2
	数 学 B	2				0～2	0～2	0～2	0～2
理 科	科 学 と 人 間 生 活	2				2	2	2	2
	物 理 基 礎	2							
	物 理	4							
	化 学 基 礎	2							
	化 学	4							
	生 物 基 礎	2	2					2	2
	生 物	4		0～2	0～2	0～2	0～2	0～4	0～4
	地 学 基 礎	2							
保 健 体 育	地 学	4							
	体 育	7～8	2	2	2	3	3	7	7
	保 健	2	1	1	1			2	2
	○レクリエーションスポーツ	2		0～2	0～2			0～2	0～2
外 国 語	○ 生 涯 ス ポ ー ツ	2				0～2	0～2	0～2	0～2
	書 道 I	2	2					2	2
	英 語 コミュニケーション I	3	3					3	3
	○ グローバルスタディーズ	2				0～2	0～2	0～2	0～2
家 庭	○ アドバンストイングリッシュ	2				0～2	0～2	0～2	0～2
	家 庭 総 合	4	2	2	2			4	4
	○ フードデザイン	2		0～2	0～2			0～2	0～2
情 報	○ ライフマネジメント	2				0～2	0～2	0～2	0～2
	情 報 I	2							
理 数	情 報 II	2					選択E		
	理 数 探 究 基 礎	1							
農 業	理 数 探 究	2～5				0～2	0～2	0～2	0～2
	農 業 と 環 境	2～6	4					4	4
	課 題 研 究	2～6		3	3	3	3	6	6
	総 合 実 習	2～8	3	1	1	1	1	5	5
	農 業 と 情 報	2～6	2	0～2	0～2		選択E	2～4	2～4
	作 物	2～8		0～2	0～2			0～2	0～2
	野 菜	2～8		4	選択B	3	選択C	7	
	果 樹	2～8		0～2	0～2			0～2	0～2
	草 花	2～8		4		3		7	
	畜 産	2～10		0～2	0～2			0～2	0～2
	栽 培 と 環 境	2～6				0～2	0～2	0～2	0～2
	飼 育 と 環 境	2～6				0～2	0～2	0～2	0～2
	農 業 経 営	2～6				2	2	2	2
	食 品 微 生 物	2～6				0～2	0～2	0～2	0～2
	○ スマート農業	2				0～2	0～2	0～2	0～2
	○ デュアル派遣実習	4				0～4	0～4	0～4	0～4
	○ 馬 学	7			4		3		7
	○ 馬 利 用 学	7			4	選択F	3	選択F	7
○ 産業社会			2～4	2	1	1	1	4	4
各学科に共通する各教科・科目の計			19	15	15	11～15	11～15	45～49	45～49
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			9	14	14	14～18	14～18	37～41	37～41
学校設定教科に関する科目の計			2	1	1	1	1	4	4
総合的な探究の時間 ()			3～6	0	0	0	0	0	0

第3節 令和6年度学年別教育課程表

Ⅲ-1 全日制課程食品科学科

教科	学年		1 年	2 年	3 年
	科目・標準単位数	類型			
語国	現 代 の 国 語	2	2		
	言 語 文 化	2		2	
	国 語 表 現	4			4
歴地	地 理 総 合	2		2	
	歴 史 総 合	2			2
民公	公 共	2	2		
	政 治 ・ 経 済	2			0～2
数	数 学 I	3	3		
	数 学 II	4		2	2
	数 学 A	2			0～2
	○ 応 用 数 学	1		0～1	
	○ 数 学 研 究	1			0～1
理科	科 学 と 人 間 生 活	2			2
	生 物 基 礎	2	2	2	
保健	体 育	7～8	2	3	2
	保 健	2	1	1	
	書 道 I	2	2		
芸術	書 道 II	2			
	書 道 III	2			
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3		
	英語コミュニケーションⅡ	4		2	2
	論 理 ・ 表 現 I	2			0～2
	○ 応 用 英 語	1		0～1	
	○ 英 語 研 究	1			0～1
家庭	家 庭 総 合	4	2	2	
情報	情 報 I	2			
	情 報 II	2			
理数	理 数 探 究	2～5			0～2
農業	農 業 と 環 境	2～6	4		
	課 題 研 究	2～6		2	2
	総 合 実 習	2～8	3	3	
	農 業 と 情 報	2～6	2		
	畜 産	2～10			0～2
	食 品 製 造	2～8		2	
	食 品 化 学	2～8		2	2
	食 品 微 生 物	2～6			2
	食 品 流 通	2～6		2	2
	地 域 資 源 活 用	2～8			0～2
	○ 商 品 開 発 I	2		2	
	○ 商 品 開 発 II	2			2
	○デュアル派遣実習	4		0～1	0～5
産業社会	○ 産 業 社 会 と 人 間	3	2	1	1
各学科に共通する各教科・科目の計			19	16～18	14～20
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			9	13～14	11～15
学校設定教科に関する科目の計			2	1	1
総合的な探究の時間		3～6	0	0	0
合 計			30	31～34	31～34

Ⅲ-2 全日制課程生産科学科

教科	学年		1 年	2 年		3 年	
	科目・標準単位数	類型		園芸コース	馬事コース	園芸コース	馬事コース
語国	現 代 の 国 語	2	2				
	言 語 文 化	2		2	2		
	国 語 表 現	4				4	4
歴地	地 理 総 合	2		2	2		
	歴 史 総 合	2				2	2
民公	公 共	2	2				
	政 治 ・ 経 済	2				0～2	0～2
数	数 学 I	3	3				
	数 学 II	4		2	2	2	2
	数 学 A	2				0～2	0～2
	○ 応 用 数 学	1		0～1	0～1		
	○ 数 学 研 究	1				0～1	0～1
理科	科 学 と 人 間 生 活	2				2	2
	生 物 基 礎	2	2	2	2		
保健	体 育	7～8	2	3	3	2	2
	保 健	2	1	1	1		
芸術	書 道 I	2	2				
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3				
	英語コミュニケーションⅡ	4		2	2	2	2
	論 理 ・ 表 現 I	2				0～2	0～2
	○ 応 用 英 語	1		0～1	0～1		
	○ 英 語 研 究	1				0～1	0～1
家庭	家 庭 総 合	4	2	2	2		
	理 数 探 究	2～5				0～2	0～2
農業	農 業 と 環 境	2～6	4				
	課 題 研 究	2～6		2	2	2	2
	総 合 実 習	2～8	3	2	2	1	1
	農 業 と 情 報	2～6	2				
	作 物	2～8		2			
	野 菜	2～8		3		3	
	果 樹	2～10				0～2	0～2
	草 花	2～8		3		3	
	農 業 経 営	2～6				2	2
	地 域 資 源 活 用	2～8				0～2	0～2
	○デュアル派遣実習	2		0～1	0～1	0～4	0～4
	○ 馬 学	4			4		3
	○ 馬 利 用 学	2			4		3
○産業社会と人間		3	2	1	1	1	1
各学科に共通する各教科・科目の計			19	16～18	16～18	14～20	14～20
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			9	13～14	13～14	12～14	12～14
学校設定教科に関する科目の計			2	1	1	1	1
総合的な探究の時間 ()		3～6	0	0	0	0	0
合 計			30	31～34	31～34	31～33	31～33
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1

マイスター・ハイスクールだより

北海道教育庁学校教育局高校教育課
[令和5年度第1号] R5.6.20発行

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」（北海道静内農業高等学校）～

令和5年度 第1回運営委員会を開催

6月2日(金)、静内農業高校を会場に、令和5年度第1回運営委員会を開催しました。開会に当たり、委員長の犬野町長から「暗中模索の中、この2年間取り組んできましたが、我々としても生徒の変化を感じているところです。3年目を迎え、集大成となりますが、皆様から御意見をいただき、今後の生徒にも続けていくことができるようにしていきたい。」と挨拶がありました。

委員会においては、桑名副校長から今年度の事業概要及び事業終了後に向けて説明があり、伴走者の嶋本氏からは、他県における事業終了後の検討状況について情報提供がありました。

また、協議後には、実習を行っている畑やハウスの視察、高校で製造・開発した商品の試食が行われました。



挨拶をする犬野委員長(中央)



運営委員会の様子



ハウス前で説明する生徒(左側)



運営委員会で提供された試食の内容

- 【左上】 アイスクリーム(さくら)
- 【右上】 ペリーラの雫ソーダ割
- 【左下】 本校産ベーコンとコーン、上島農園産のハウレンソウの炒め物
- 【右下】 ツーンと山わさびかおる鮭おにぎり



町長の質問に答える生徒

桑名副校長(マイスター・ハイスクールCEO)による説明

令和3年度の第1回運営委員会において承認された「マイスター・ハイスクールビジョン(専門高校における人材育成計画の概要)」に基づき、本年度の各事業を計画しています。

今年度の事業概要図及び事業計画、教育課程の改善や学習内容の充実を図った点は次のとおりです。また、事業終了後に向けた検討課題についても、説明がありました。

<今年度の事業概要図>



<今年度の事業計画> テーマ『進化』

- 1 専門的知識・技能を有する職業人材を活用した講義及び実践的研修
- 2 研修(ICT、IoTを活用している農業施設、農業機械を実地視察、研修)
- 3 施設見学及び実習など施設・設備の共同利用(産業界、農業関連施設、大学等)
- 4 特別支援学校と連携した「乗馬交流(馬セラピー)」の実証研究
- 5 デュアル派遣実習及び農業インターンシップの実施
- 6 産業界等と連携した食品に関する新たな商品開発・販売、収益活用のシステム構築
- 7 海外の学校への訪問交流事業
- 8 キャリア・パスポートの活用

＜教育課程の改善＞

今年度改善した内容 (学科共通)	1・2年「応用英語」、「応用数学」 各1単位 ・獣医師や4年制大学志望者が履修 ・長期休業中の実施を想定 ・北海道高等学校遠隔授業配信センター(愛称：T-base)を活用	＜期待する効果＞ ・進学希望者同士の切磋琢磨 ・学習指導内容の充実 ・教員の授業力向上
-----------------------------------	---	---

＜学習内容の充実＞

学科	今年度充実させた内容
学科共通	・科目「課題研究」におけるプロジェクト学習の一人1テーマ1研究1発表（3年生）
生産科学科	【馬事コース】 採草地や放牧地の土壌や飼料に関する学習の充実 【園芸コース】 バイオ炭を教材に、持続可能な農業に関する学習の充実
食品科学科	・開発した商品の内部品質の分析方法の習得
英語科	・ケンタッキー大学語学学校「短期語学プログラム」への参加

＜事業終了後に向けて＞

課題	検討内容
事業内容	・外部講師に依頼する内容と教員が担う内容の精査、重要度に応じた実施方法（来校・オンライン）の検討、教科・科目の授業計画への位置付けの精査が必要
運営委員会の機能	・事業終了後、事業の実施や関係団体との連携について、合意形成の場面に加え、運営方法や人員規模の検討が必要
マイスター・ハイスchool CEOの役割	・食品、馬、園芸の各分野において、企業や団体等との連携が持続できるよう役割分担の検討が必要
産業実務家教員の役割	・馬事コースの学習における教員の知識・技術の向上を図るため、継続した指導体制について検討が必要
財源確保	・教育振興会や町、協議会方式による支援など、具体的な方策について検討が必要

伴走者からの情報提供

事業終了後の自走に向けて、本事業に係る「PDCAサイクル構築のための調査研究」を受託し、本校の伴走者となっている株式会社あしたの寺子屋 代表取締役 嶋本 勇介氏から、CEOの活用や校内体制の方向性、次年度の資金調達状況、県教委の考え方・活動について、情報提供をいただきました。



情報提供をする嶋本さん

運営委員からの指導・助言

- 本事業の成果を、他の専門高校にもおいても、それぞれ持続可能な形で実施していくことができるようなモデルを作っていきたいと考えている。【行政】
- 関係機関としても、産業振興や地域振興など、通常業務として行っている仕事に、本事業で行った内容をうまく位置付けることで、取組を継続していくことができると考えている。【行政】
- 事業の認知度を上げ、最終的には地元に支援・協力していただく必要がある。【行政】
- 事業終了後の推進体制と関係機関の役割分担をどうするか考える必要がある。その上で、取組内容や実施方法について検討し、必要な予算を早急に組み立てる必要がある。【行政】
- 民間企業にとって、産学連携は必須だと考えている。社員の成長とモチベーションの向上にもつながっているため、来年以降も協力させていただきたい。【産業界】
- 本校の食に関する取組が、国際機関のインターネットサイトに掲載されている。こうした地域からの情報発信が、生徒の地域への愛着や帰属意識の高まりにつながるものと期待している。【産業界】
- これまで活用してきた軽種馬振興事業が、恒久的に実施されることとなったため、今後の取組について、学校と情報を共有しながら、協力していきたい。【産業界】
- 産業実務家教員の確保はとても難しいため、例えば大学の産業実務家教員が、高校の授業に携わるなど、連携の在り方を模索していきたい。【大学】
- 本事業による体験は、生徒の進路選択に大きな影響があると感じている。同規模で継続できないとしても、何らかの形で残していただきたい。【保護者】

マイスター・ハイスクールだより

北海道教育庁学校教育局高校教育課
[令和5年度第2号] R5.10.31発行

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」（北海道静内農業高等学校）～

令和5年度 第2回運営委員会を開催

10月18日(水)、令和5年度第2回運営委員会をオンラインで開催しました。開会に当たり、西村副委員長から「マイスター・ハイスクール事業の学習を生かして、生徒が様々な大会で活躍していることが報道で紹介されていることを大変嬉しく思います。本日は、皆さんが一番気になる事業終了後の体制づくりについて、御意見いただきたい。」と挨拶がありました。

委員会においては、桑名副校長から3年目の事業の経過、マイスター・ハイスクール事業実施前と実施後の生徒の学びの変化、事業の継続に向けた検討案について、説明がありました。

桑名副校長（マイスター・ハイスクールCEO）による説明

<3年目の事業経過について>

今年度は、104の事業が計画され、9月8日現在、実施率は55%と概ね順調に実施されています。地域の企業や団体等と連携した今年度の主な取組について紹介します(カッコ内は連携先)。

事業数	計画	実施	未実施	中止	実施率
食品科学科	28	15	13	0	54%
生産科学科 馬事コース	22	12	10	0	55%
生産科学科 園芸コース	31	16	15	0	52%
専攻コース	20	5	15	0	25%
専攻コース	10	6	4	0	60%
専攻コース	5	3	2	0	60%
合計	104	57	47	0	55%

※実施率=実施数÷(計画数-中止数)×100で計算

令和5年度の事業実施状況



【食品科学科】どさんこプラザ札幌店での試験販売(日高振興局商工観光労働課)



【生産科学科・園芸コース】先進地視察研修(新ひだか町みどりのシステム推進協議会)



【生産科学科・馬事コース】3D鏡を活用した乗馬療育の実践(北海道立総合研究機構)



夏期休業中における遠隔での数学・英語の講義配信(北海道教育委員会)



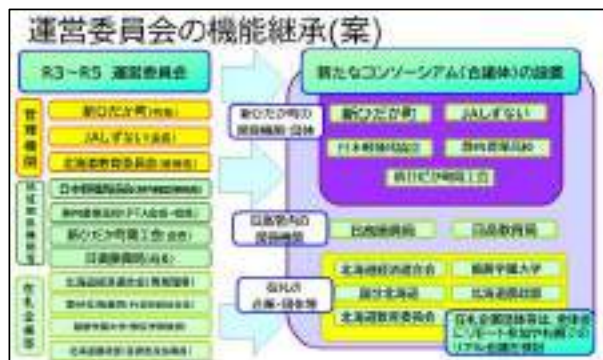
短期留学生の受入れによる国際交流(新ひだか町姉妹都市交流委員会)

<マイスター・ハイスクール事業実施前と実施後の生徒の学びの変化>

マイスター・ハイスクール事業の導入前と、3年目となる本年において、生徒の学びの内容がどのように変わったのかを整理しました。

学科	取組前	取組後
食品科学科	- 限られた研究班が、商品開発の学びを体験 - 原材料生産に関する研究班もあり、地域資源の活用は低迷気味	- 食品に関する4つの研究班を開設し、全生徒が連携した学びを体験 - 地域資源の活用が活性化
生産科学科(園芸コース)	- 限られた研究班が、外部と連携したプロジェクト学習を体験 - 地域の生産者や研究機関との関わりが薄く、栽培技術や生産状況は低迷気味	- 授業や研究班単位で、全生徒が地域課題の発見や地域の農業の学びを体験 - 様々な技法を学び、地域農業の活性化に貢献
生産科学科(馬事コース)	- JRA・JBBAは継続的に本校の馬事教育に関与 - 連携や支援、学習の範囲が限定的	- 繁殖から販売までの専門的プログラムが充実 - 競馬産業の理解を深める学習が拡大

運営委員会やマイスター・ハイスクールCEO、産業実務家教員の機能を、本事業終了後(令和6年度以降)、次のように継承・見直すことについて、案が示されました。



- ・出席委員の負担の軽減
- ・開催主体の機動性の確保
- ・他校での横展開



- ・地域関係者を主体としたコンソーシアムの設立
- ・在札企業とのリモート会議の開催 など



- ・学校運営体制の中でコンパクト化
- ・複数の教諭で分担して対応



- ・農場長が、事業全体の進捗管理
- ・教頭・教務主任が、授業計画の見直し
- ・学科長が、各分野の事業調整 など



- ・学校運営体制の中でコンパクト化
- ・複数の外部専門家の招へい



- ・担当教員が、外部講師や施設利用調整
- ・外部専門家から、授業計画について助言
- ・馬術部顧問は、校内組織で対応 など

- 学校からの意見や要望を踏まえ、事業が継承できるような人員の配置や予算面などで対応するとともに、本校が構築した職業人材育成システムを、他の専門高校に展開できるよう取り組んでいきたい。【行政】
- 振興局として、地域の産業理解を進める取組や、特産品の消費拡大イベントへの高校生の参加など、引き続き、学校と連携しながら取組を進めていきたい。【行政】
- 園芸に関する学校支援を普及活動の一般業務として位置付けることは十分可能と思う。本事業を通じてできたつながりを生かしてほしい。【行政】
- 食品に関する事業について、経済界として、今後もできる限り協力していきたい。【産業界】
- 馬に関する事業について、助成金を活用しながら、今後も様々な支援を行っていきたい。また、授業の質を維持するための先生方の専門的な研修についても、協力していきたい。【産業界】
- 民間企業にとって、地域貢献や産学官連携は責務だと考えている。連携により企業理解が深まり、就職にも結び付いたため、今後もパートナーシップとして取組をしていきたい。【産業界】
- 本事業をどのような組織体制で継承するのか具体化するとともに、在校生やこれから入学してくる保護者に、次年度以降の取組について示していく必要がある。【産業界】
- 北海道は人気の観光地や移住地でもあるため、農業の専門性に加え、外国のことを知っておくことも必要になってくると思う。【産業界】

マイスター・ハイスクールだより

北海道教育庁学校教育局高校教育課
[令和5年度第3号] R6.1.19発行

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」(北海道静内農業高等学校)～

「マイスター・ハイスクール事業」成果発表会を開催

12月19日(火)、事業3年目の研究成果のまとめとして、成果発表会を新ひだか町公民館で開催し、会場とオンラインを合わせて、全国から120名を超える方々が参加しました。

成果発表会は、生徒が進行を担い、開会に当たり、農業クラブ会長の遠藤さんが「この3年間、地域や企業の方々との交流を通し、たくさんのことを学んできました。今日は、その成果を堂々と発表してください。」と生徒に呼びかけました。その後、マイスター・ハイスクール事業で取り組んだ内容や、成長したこと、感じたことなどの報告、課題研究で取り組んできた研究を踏まえた提言、産業界や地域の方々との討議、討議の全体共有が行われました。



進行を務めた前農業クラブ会長の松本さん



開会に当たり、挨拶をした農業クラブ会長の遠藤さん

マイスター・ハイスクール事業の研究成果について

各学科・コースを代表して3名の生徒から、今年度までの各学科・コースの取組と、3年間のマイスター・ハイスクール事業を通して、成長したことや感じたこと、学んだことなどについて報告がありました。

【事業テーマ】地域発次世代イノベーター人材の育成～持続可能な日高農業の創り手～



【食品科学科】
3年 梅木さん

- ＜取組＞
- ・企業や大学など15団体と連携
 - ・学校設定科目「商品開発Ⅰ」、「商品開発Ⅱ」を開設し、新ひだか町や企業と連携した商品開発を実施
 - ・「静農マドレーヌ」、「桜香るみるくソフト」、「ゴダチーズ」など計8商品を開発
 - ・大阪の百貨店で販売会を実施

- ＜成果＞
- ・自分の意見を言えるようになり、リーダーにも挑戦するようになった
 - ・農業系の大学へ進学し、将来、商品開発に関わりたいと考えるようになった



【生産科学科・園芸コース】
3年 山本さん

- ＜取組＞
- ・JAや振興局、農業改良普及センターなどと連携
 - ・農業の担い手育成、高度な栽培知識と実践的な技術の習得など、4分野で講義や演習を実施
 - ・新ひだか町みどりの食料システム戦略推進協議会に参加し、バイオ炭と緑肥の活用について栽培試験を実施

- ＜成果＞
- ・農業の多様性を理解し、6次産業化を行う経営を目指そうと考えるようになった
 - ・学びが深まることで多くの疑問をもち、積極的に聞く姿勢が身に付いた



【生産科学科・馬事コース】
3年 牛尾さん

- ＜取組＞
- ・日本中央競馬会(JRA)、日本軽種馬協会(JBBA)などと連携
 - ・軽種馬の栄養管理、繁殖、育成、調教、販売などについて連携した取組を実施
 - ・産業実務家教員から最先端の知識や技術を学習

- ＜成果＞
- ・馬に関わる様々な職業を知り、自分の将来を見直すきっかけとなった
 - ・就職後、子どもたちへの馬文化の普及や強い競走馬の育成に貢献していきたい



グループ別協議・全体共有

科目「課題研究」において、グループごとに取り組んだ研究を踏まえ、10年後の「地域の食」や「日高の馬産地」、「花き・野菜」についてそれぞれ提言を行い、その内容について産業界や地域の方々と討議しました。

分野	討議テーマ (助言者)	討議のまとめ
食品	地域食材を活かした食品開発革命 (北海道経済連合会)	商品開発は、地域全体で取り組み、これからも食文化を考え続けることが大事である。
	10年後の食品廃棄物削減について (新ひだか町商工会)	食品廃棄物の量を把握した上で、地域の人々とともに、目標を設定して取り組む必要がある。
	未来の新ひだか町の災害食 (新ひだか町)	農産物の規格外品を活用し、長期間、常温で保存できるような災害食の開発に取り組んでいきたい。
	SDGsに貢献できる地域の規格外品を用いたこれからの商品開発を考える (生活協同組合コープさっぽろ)	規格外品を使用する場合は、印象に残るような商品づくりが求められるため、SNSや二次元コードで注目してもらえるよう工夫することが必要である。
馬事	10年後の日高の馬産地にホースマンをどうやって増やすか (日本中央競馬会)	本校の取組をもっと多くの方に知ってもらうとともに、馬産地のイメージアップや職場環境の改善などを図る取組が地域の活性化につながる。
	10年後の日高の馬産地を盛り上げるためには (日本軽種馬協会)	道外の方に向けた情報発信やイベントの実施のほか、女性や外国人が参入しやすい環境づくりが大切である。
	馬のセカンドキャリアの充実に向けて (日本中央競馬会)	生産された馬が地域に帰ってこられるよう、受入先確保に向けた説明の機会を設けることが必要である。
	子どもたちと馬の関わりを増やすためには (日高軽種馬農業協同組合)	親子での乗馬体験の実施など、乗馬の敷居を下げ、馬を身近に感じてもらう取組が必要である。
園芸	北海道のどこよりも輝いた花き生産 (胆振農業改良普及センター)	花き生産を町全体で盛り上げるため、バイオ炭などの研究活動を町民に理解してもらうことが大切である。
	10年後のミニトマトについて (日高農業改良普及センター)	ミニトマトの生産や販売先について、ターゲットを決め、他の地域と差別化を図っていくことが必要である。

講評

生徒たちの発表を受け、管理機関を代表して新ひだか町長と北海道教育委員会教育長が講評を行いました。



大野町長

本事業により、生徒の皆さんがどのように成長できたかを自分の言葉で聞くことができて嬉しかった。皆さんが好奇心をもち、もっと勉強したいと意欲が湧いてくるような取組になったと思う。これからも企業と連携がとれるようになっていきたい。
生徒の皆さんには、これからも夢を追い続けてもらいたい。



倉本教育長

この3年間で、たくさんの気付きや学び、成長があったことと思う。地域や産業界と、地域の課題について考えてきたが、これからは自ら課題を発見し、解決に向けて考える姿勢をもち続けてほしい。
運営委員をはじめ、連携いただいた企業や団体の皆様に心から感謝申し上げます。

閉会挨拶

閉会に当たり、生徒会長の小清水さんが、「連携していただいた企業、本日助言いただいた皆様など多くの皆様に感謝します。」と挨拶しました。



閉会に当たり、挨拶をした生徒会長の小清水さん

成果発表会終了後、生徒と教育長の懇談会を開催

成果発表会終了後、発表や運営に携わった生徒と倉本教育長との懇談会を実施しました。
本事業で印象深かった取組や感じたことなど、発表では伝え切れなかった生徒の声を直接聞く機会となりました。



倉本教育長(後列左から2人目)と生徒たち

マイスター・ハイスクールだより

北海道教育庁学校教育局高校教育課
[令和5年度第4号] R6.2.21発行

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」(北海道静内農業高等学校)～

令和5年度 第3回運営委員会を開催

2月2日(金)、令和5年度第3回運営委員会を、参集とオンラインによるハイブリッドで開催しました。運営委員会は、大野委員長からの「この3年間、皆さんの御協力によりここまで進めてきた。多くの成果を感じているところである。」との挨拶で始まり、桑名副校長(マイスター・ハイスクールCEO)から、今年度の事業の取組、定性的目標及び定量的目標の評価結果、次年度に向けた体制などについての報告があり、運営委員による検証・評価を行いました。

今年度の取組

今年度の取組について、10月の第2回運営委員会以降に実施した内容について、報告がありました。

■ 1次産業間連携による地域資源理解

日高振興局農務課、林務課、水産課との連携により、農業用水利施設やダム、サケマスふ化場、森林施業地の視察や水産業の学習など、地域産業について、広く学習しました。



漁具や昆布漁の実態の学習の様子

■ 栽培試験におけるクラウドファンディングの活用

「公立高校ガバメントクラウドファンディング事業」を活用し、バイオ炭を活用したハウレンソウの栽培試験を無加温で実施し、一般のものとは遜色ない品質のものを収穫しました。



ハウレンソウを管理している様子

■ ウィンターフェア(販売会)の開催

12月の販売会において、ハーバリウムの製作体験や、開発した商品の試食、プロジェクト学習のポスター発表を行うなど、町民の方々と交流を深めました。



研究の成果を説明している様子

■ 成果発表会の開催

12月に3年間の集大成として成果発表会を開催し、各学科の代表生徒による発表や、グループ別に設定したテーマごとに、地域の外部講師の方への提言及び討議を行いました。



地域の外部講師との討議の様子

定性的目標及び定量的目標の評価結果

定性的目標及び定量的目標に対するアンケートの結果を基に、本事業による生徒の変容について、次のとおり報告がありました。

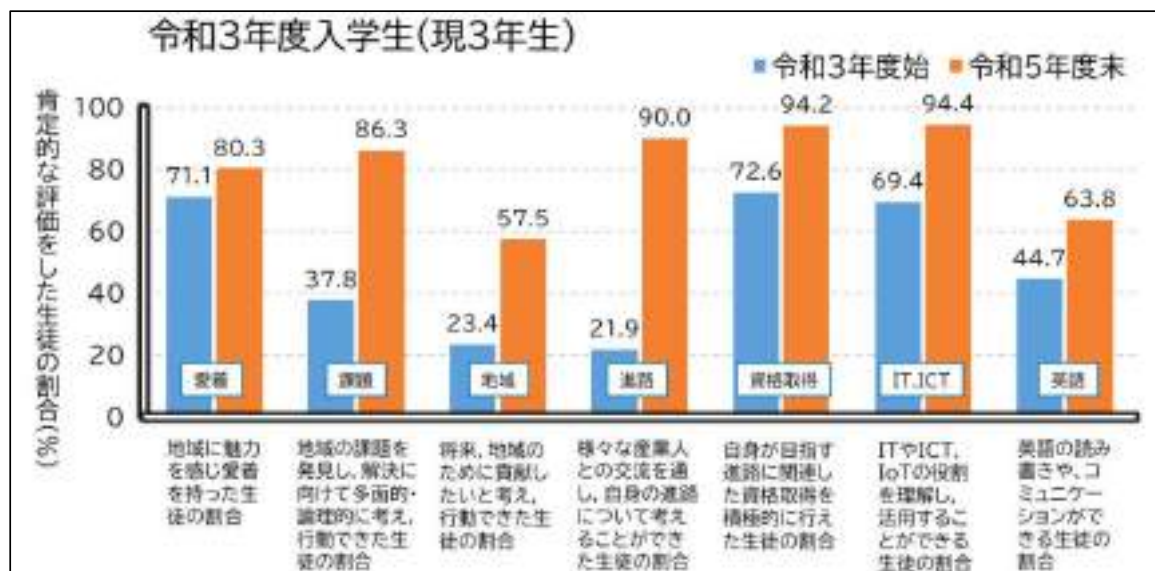
【評価方法】全校生徒を対象にアンケートを実施し、4つの選択肢から回答。そのうち、4又は3の回答を肯定的な評価として捉え、その割合の変化で達成度や習得度を測定(年度始は6月、年度末は12月に実施)。
〔4：大いにあてはまる(思う)、3：あてはまる(思う)、2：あまりあてはまらない(思わない)、1：まったくあてはまらない(思わない)〕

＜「定性的目標」に対する評価＞ ※ 3年生の評価を掲載(3年間事業に取り組んだ学年)



- ・全ての項目で、肯定的な評価をした生徒の割合が増加した。
- ・大きく増加した順に、「メタ認知」(+26.6P)、「社会性」(+24.1P)、「意欲」(+22.2P)となった。

<「定量的目標」に対する評価> ※ 3年生の評価を掲載（3年間事業に取り組んだ学年）



- ・全ての項目で、肯定的な評価をした生徒の割合が増加した。
- ・大きく増加した順に、「進路」(+68.1P)、「課題」(+48.5P)、「地域」(+34.1P)となった。

事業終了後の体制及び次年度の取組（案）

事業終了後の体制及び次年度の取組について原案が示され、方向性について確認しました。

令和3～5年度	令和6年度以降
運営委員会	●北海道静内農業高等学校コンソーシアム地域連携コンソーシアム（仮称）を設立 ・地域農業・馬産と食品産業の発展を支え、地域の経済・社会をけん引する人材の育成・確保に向け、産業界、行政と教育の関係者が一体となった取組を実施 ・全体会は、運営委員として連携した企業や団体等を中心に、実務担当者で構成 ・全体会（1回／年）と園芸・馬事・食品などの小委員会（随時・少人数）を開催
マイスター・ハイスchool CEO	●学校運営体制の中でコンパクト化（管理職指導のもと、分担して対応） ・教務部長・・・教育課程の見直しの中心 ・農場長・・・取組全体の進捗管理、コンソーシアム（運営委員会の後継）の対応 ・学科長・・・それぞれの学科における対外的な取組の調整
産業実務家教員（獣医師）	●学校運営体制の中でコンパクト化 ・担当教諭・・・教材作成・授業の実施、馬事関係の取組の調整 ●馬に関する専門的・実践的な学習内容は、複数の外部専門家に講師を依頼

運営委員による検証・評価

次年度の体制や今後の取組に対する意見

- ・本校の3年間の成果を広め、それぞれの地域で、地域産業を支える人材の育成ができるよう取り組みたい。【行政】
- ・本校とは、支援という形ではなく、パートナーシップという形で、引き続き取り組んでいきたい。【産業界】
- ・軽種馬は、産業界全体で人材育成や確保が課題であるため、先生方の研修も含め、今後も協力していきたい。【産業界】
- ・農業高校だからできる研究に取り組み、地域にフィードバックすることで、地域との関わりを深めてほしい。【産業界】
- ・先生方が生徒に丁寧に対応し、SNSでの発信も効果的に行われていた。形が変わっても取組を継続してほしい。【保護者】

■ 3年間の指定事業の終了にあたって ■

本校は、指定事業を通して、地域や産業界等との連携した取組を充実させ、教育課程の改善を図りました。様々な取組により、「地域に貢献したい」「地域の課題解決に向けて取り組みたい」と考え、行動した生徒や、産業界人との交流を通して、自身の進路を考える生徒が増えるなど、多くの成果を上げることができ、本事業のモデルケースとして、全国から高い評価を得たところです。

今後、各学校においても、本校の取組を参考にして、地域や産業界等と一体となった職業教育がより一層展開されることを期待しています。



「マイスター・ハイスchoolだより」のバックナンバーは、高校教育課ウェブページで見ることができます。



第5節 農業クラブ活動関連資料(大会結果)

- 1 北海道学校農業クラブ連盟意見発表大会(真狩)
 - (1) 分野Ⅰ類 優秀賞 生産科学科 2年 藤原 結美
タイトル: 夢を販売する第一歩～経験から培う覚悟と夢へ～
 - (2) 分野Ⅱ類 最優秀賞 食品科学科 3年 高橋柚珠乃
タイトル: 「商品開発の掟」から学んだこと～商品価値を最大化する3つのパワー～
 - (3) 分野Ⅲ類 優秀賞 生産科学科 3年 原田 真緒
タイトル: 不思議な力を感じさせられる一流のサイドウオーカーを目指して
- 2 日本学校農業クラブ北海道連盟全道技術競技大会(帯広農業)
 - (1) 農業鑑定競技
分野「農業」 優秀賞 食品科学科 3年 高橋柚珠乃, 田中 夢斗
食品科学科 2年 渡部 めい
食品科学科 1年 田中 とわ
分野「農業」 最優秀賞 生産科学科 2年 小清水陽人
優秀賞 生産科学科 3年 原田 真緒
生産科学科 2年 城越 美羽, 瀬川和佳奈
生産科学科 1年 工藤 遙大
 - (2) 農業情報処理競技 最優秀賞 生産科学科 2年 三浦 聖晴
 - (3) 家畜審査競技 優秀賞 生産科学科 1年 山田向日葵
- 3 日本学校農業クラブ北海道連盟第75回全道実績発表大会(旭川農業)
 - (1) 分野Ⅰ類 優秀賞 生産科学科 草花研究班
タイトル: デルフィニウムの切り花品質の調査・研究
～赤色LEDランプがデルフィニウムに与える影響～
 - (2) 分野Ⅱ類 優秀賞 食品科学科 肉加工研究班
タイトル: 新ひだか町産和牛「こぶ黒」を活用した特産品の創出
 - (3) 分野Ⅲ類 優秀賞 生産科学科 馬利用研究班
タイトル: 活気あるホースタウンを目指して
～馬を利用した教育プログラムの実践～
 - (4) クラブ発表 最優秀賞 農業クラブ執行部
タイトル: 農業の未来を創る地域イノベーターを目指して
～クラブ員を覚醒させる3創戦略～
- 4 日本学校農業クラブ北海道連盟第42回全道意見発表大会(遠別農業)
 - (1) 分野Ⅱ類 最優秀賞 食品科学科 3年 高橋柚珠乃
 - (2) 分野Ⅲ類 優秀賞 生産科学科 3年 原田 真緒
- 5 第73回日本学校農業クラブ全国大会令和5年熊本大会
 - (1) 意見発表分野Ⅱ類 優秀賞 食品科学科 3年 高橋柚珠乃
タイトル: 「商品開発の掟」から学んだこと～商品価値を最大化する3つのパワー～
 - (2) 農業鑑定競技
分野「農業」 優秀賞 食品科学科 2年 渡部 めい
食品科学科 1年 田中 とわ
分野「農業」 優秀賞 生産科学科 2年 小清水陽人
優秀賞 生産科学科 1年 工藤 遙大
- 6 コンテスト関係
 - (1) 令和5年度北海道産業教育意見・体験発表大会
優秀賞 原田真緒(生3)
タイトル: 不思議な力を感じさせられる一流のサイドウオーカーを目指して
 - (2) ハイスクールパティシエロワイヤル2023
審査員特別賞 田邊 美羽(食2), 山田 美槻(食2)
 - (3) 第10回高校生チャレンジグルメコンテスト
大賞(北海道知事賞) 唐川 風伎(食1), 田中 とわ(食1), 土田 百花(食1)
 - (4) 米粉スイーツレシピコンテスト
特別賞 川上 稜平(食3), 阿部 真心(食3)
 - (5) 探求チャレンジ胆振日高
タイトル: 「3Dプリンターで作成した樹脂プレートによる裂蹄処置の検証」
最優秀賞 三浦 聖晴(生2), 瀬川和佳奈(生2)
 - (6) 探求チャレンジ・ジャパン
タイトル: 「3Dプリンターで作成した樹脂プレートによる裂蹄処置の検証」
英語発表部門
最優秀賞 木部 千乃(生2), 城越 美羽(生2)
日本語発表部門
北海道知事賞二席 三浦 聖晴(生2), 瀬川和佳奈(生2), 中島 朝孝(生2)

1 自治体

- ・北海道農政部
 - 技術普及課
 - 食品政策課
 - 競馬事業室
- ・北海道日高振興局
 - 農務課
 - 林務課
 - 水産課
 - 商工労働観光課
 - 地域政策課
 - 日高農業改良普及センター
 - 日高家畜保健衛生所
- ・北海道教育委員会
- ・北海道教育長日高教育局
- ・新ひだか町
 - 農政課
 - 町づくり推進課、
 - 農業実験センター
 - 水産林務課
 - 新ひだか町教育委員会
 - 新ひだか町博物館
- ・独立行政法人北海道立総合研究機構
 - 中央農業試験場
 - 上川農業試験場
 - 花・野菜技術センター
 - 林産試験場
 - ものづくり支援センター
 - 食品加工研究センター
- ・公益財団法人北海道農業公社
- ・独立行政法人家畜改良センター新冠牧場
- ・農林水産省経営局就農・女性課
- ・農林水産省北海道農政事務所
- ・経済産業省北海道経済産業局
- ・独立行政法人国際協力機構 JICA 北海道

2 協同組合・団体

- ・しずない農業協同組合
- ・みついし農業協同組合
- ・にいかっぶ農業協同組合
- ・ホクレン農業協同組合連合会
- ・ひだか漁業協同組合
- ・日本中央競馬会
 - 日高育成牧場
 - 札幌競馬場
- ・日本軽種馬協会静内種馬場
- ・日高軽種馬農業協同組合
- ・北海道経済連合会
- ・生活協同組合コープさっぽろ
 - 広報部
 - 苫小牧本部
 - 商品本部
 - マーケティング部
 - デリカ部
- ・北海道農業協同組合中央会
- ・一般財団法人食品安全マネジメント協会
- ・静内ロータリークラブ
- ・一般社団法人新ひだか町観光協会
- ・新ひだか町商工会
- ・新ひだか町森林組合
- ・一般社団法人日高管内さけ・ます増殖事業協会

3 企業

- ・国分北海道株式会社
 - 人事総務部
 - 地域共創部
 - 量販事業部
 - フードサービス事業部
 - 物流システム部
- ・株式会社ハッピーアロー
- ・北海道放送株式会社
- ・札幌テレビ放送株式会社
- ・株式会社日本農業新聞北海道支所
- ・北海道テレビ放送株式会社
- ・株式会社農業総合研究所
- ・日糧製パン株式会社

- ・株式会社セコマ
- ・株式会社セイコーマート
- ・石屋製菓株式会社
- ・株式会社南華園
- ・株式会社北海道博報堂
- ・NTTコミュニケーションズ株式会社北海道支社
- ・ベル食品株式会社
- ・カゴメ株式会社北海道支店
- ・雪印メグミルク株式会社

商品開発部

ミルクサイエンス研究所

- ・雪印種苗株式会社北海道研究農場
- ・Y U I M E 株式会社
- ・株式会社オフィス内田
- ・日高信用金庫
- ・株式会社 J A M P S
- ・ヤフー株式会社 (S R 推進統括本部)
- ・パティスリーノワール
- ・有限会社あま屋
- ・C R A P E & G E R A T O P e e k a b o o
- ・株式会社 L o v i n g C o w s
- ・株式会社 T A I S H I
- ・みついし商事株式会社
- ・くしやフーズ株式会社
- ・クッキー工房風
- ・ひだかミート精肉店
- ・有限会社一力
- ・クラフトビネガー株式会社
- ・アイデアル株式会社
- ・コープフーズ株式会社
- ・日本農業新聞北海道支所

4 大学・高校

- ・北海道大学
 - 農学部
 - 北方生物圏フィールド科学センター
 - スマート農業教育拠点
- ・北里大学
- ・北見工業大学
- ・藤女子大学
- ・酪農学園大学
 - 獣医学群

農食環境学群

- ・東京農業大学
- ・信州大学
- ・北海学園大学
- ・帯広畜産大学
- ・ヴェルジェ高校(フランス)
- ・ジェームズ・ルース農業高校(オーストラリア)
- ・ラフィエット高校(アメリカ)

5 農業生産法人、農業生産者

- ・株式会社マドリン
- ・上島農園
- ・菊地農園
- ・浦東農園
- ・株式会社SKファーム
- ・山崎農園
- ・L O S E L A B O
- ・地原農園
- ・株式会社 なまら十勝野
- ・F a r m & F i r m かたもと
- ・株式会社尾藤農産
- ・株式会社ファームホロ
- ・有限会社谷岡牧場
- ・株式会社MOR I Y A
- ・有限会社たけもと農場
- ・湘南佐藤農園
- ・株式会社素エコ
- ・有田農場
- ・金森農場
- ・今野農場

令和 5 年度(2023年度)
マイスター・ハイスクール事業研究実施報告書(第 3 年次)
令和 6 年 3 月

指定校名 北海道静内農業高等学校

〒056-0144 北海道日高郡新ひだか町静内田原797番地
TEL:0146-46-2101 FAX:0146-46-2151
website : <http://www.shizunainougyou.hokkaido-c.ed.jp/>